

子ども読書支援センターニュース No.158

2017. 7. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成29年8月1日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《7月のおはなし会で使った本》

『きゅっきゅきゅ』 林明子/さく 福音館書店 1986

『たまごのあかちゃん』 かんざわとしこ/ぶん やぎゅうげんいちろう/え 福音館書店 2009

『はっぱのなかでみつけた』 ひろのたかこ/さく 福音館書店 2005

『かわるよかわるよ』 小林桂子/作・絵 教育画劇 2011

『おさじさん』 松谷みよ子/文 東光寺啓/絵 童心社 1969

★「児童文学作家まはら三桃（みと）さんと語る会」

○日時：平成29年8月18日（金）13：30～15：30 ○場所：山口県立山口図書館 第1研修室

○対象：県内の中学生、高校生 ○定員：30名（要申込み・先着順）

○持参物：お気に入りのまはら三桃さんの作品1冊（個人の本には著者のサインも可能）

○申込方法：電話、FAX、Eメールで申込み（学校からでも個人でも可能）

★学校図書館セミナー

○日時：平成29年8月23日（水）9：30～16：00

○場所：山口県教育会館 第一研修室（5F）

○講師：徳田悦子氏（東京学芸大学非常勤講師）

○内容：探求的な学習の進め方、情報カードを活用した探求的な学習の実践

○対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、市町教育委員会指導主事等

○持参物：図書2冊（日本の文化を紹介するために活用できるもの）、『朝日ジュニア学習年鑑』1冊（年度は問わない）、ネームペン（黒）

○定員：90名（要申込み・先着順）

○申込方法：電話、FAX、Eメールで申込み○申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111

FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『きゃべつばたけのぴよこり』 甲斐信枝/作 福音館書店 2017.5 ¥900

キャベツの葉の裏にふしぎな形のものがかくついている。アリがつかくと「ぴよこり」、カメムシがたたいても「ぴよこり」と動く。朝が来ると不思議な「ぴよこり」の背中がびりりと裂けて、出てきたのは1匹のモンシロチョウ。春のキャベツ畑を舞台に、小さな生きものたちの世界を美しく描く。「ちいさなかかくのとも」2003年5月号のハードカバー版。科学絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『ホウホウフクロウ』 井上洋介/作 福音館書店 2017.6 ¥1700

「ふくろう おおきな メダマで ほう ほうって うたう…。」 『くまのこウフ』の挿絵や『でんしゃえほん』で有名な著者が、最後に描いた静謐な世界。墨で描かれたフクロウやミミズク、セミたちが金泥や銀、青の絵の具で彩られ、それぞれの絵に著者の落款があり、淡々とした詩がついている。2016年に逝去した著者の最後の詩画集。37×26cmの大判サイズ。

『ふしぎな銀の木 スリランカの昔話』 シビル・ウェッタシンハ/再話・絵 松岡享子 市川雅子/訳 福音館書店 2017.6 ¥1400

「世にも美しい銀の木がはえ、枝という枝に銀の花が咲いて銀の実がなり、銀のオンドリが三たび、高らかにときをつげる」という不思議な夢を見た王様。王様は三人の王子に「夢の中の銀の木を探し出して持ち帰るように」と命じ、王子たちは旅に出るが…。

『きつねのホイティ』『かさどろぼう』等でおなじみのスリランカの絵本作家による、豊かな色彩の昔話絵本。

『金剛山（クムガンサン）のトラ 韓国の昔話』 クォン・ジョンセン/再話 チョン・スンガク/絵 かみやにじ/訳 福音館書店 2017.6 ¥2600

母ひとり子ひとりの家庭で育った少年ユボギは、自分の父親が金剛山のトラ退治に行ったまま帰らぬ人となったことを知る。父の仇討ちを心に誓ったユボギは、己の心身を鍛え弓の腕をみがく。やがて立派な若者に成長したユボギは、金剛山のトラ退治へと旅立った…。韓国の有名な昔話が、水墨画風のエネルギッシュな画でダイナミックに表現されている。世界傑作絵本シリーズ。

<絵本-小学校低学年から>

『ほんはまっていますのぞんでいきます』 かこさとし/著 復刊ドットコム 2017.5 ¥1800

あなたは本が好きですか。読みたい本はありますか。町には、いろいろな本がちゃんと揃っていて、無料で読めるところがありま

す。そこは「としゃかん」。本が読みたくなったら図書館に行こう。わからないことは図書館の係の人に聞こう。本がいっつもあなたを読んでくれるのを待っています。1985年出版の「かこさとし・しゃかみの本」シリーズの復刊。

<読み物—小学校低学年から>

『だんまりうさぎときいろいかさ』 安房直子/作 ひがしちから/絵 偕成社 2017.6 ¥1400

雨続きで、だんまりうさぎは外で働かず、傘おぼろぼろでお出かけもできず。そこで、古い黄色いレインコートをといて傘をはりかえることに。やっとのことで傘がはり上がった日はいいお天気に。それでも傘をさして、大好きなおしゃべりうさぎに会いに行くと…。他に「だいこんばたけのだんまりうさぎ」も収録。『だんまりうさぎとおしゃべりうさぎ』に続くシリーズ2作目。

<読み物—小学校中学年から>

『春くんのいる家』 岩瀬成子/作 坪谷令子/絵 文溪堂 2017.6 ¥1300

小4の日向は、離婚したママと一緒に祖父母の家に引越してきた。同じタイミングでいとこの中2の春くんも祖父母の家を継ぐために引き取られ、齊木家は5人家族に。お互いに気を遣いながら一緒にご飯を食べても、テレビを観ても、会話がしっくりこない。そんなある日、春くんが子猫を拾って帰ってきた…。新しい家族の形をさわやかに描く1冊。作者は山口県出身。

<読み物—小学校高学年から>

『化けて貸します! レンタルショップ八文字屋』 泉田もと/作 岩崎書店 2017.6 ¥1300

江戸の時代、損料屋(レンタルショップ)「八文字屋」に奉公に出ることになった文吾。ここの店員は文吾以外みんなタヌキで、依頼があればすぐにレンタル品に化けて、貸出先で役目を果たすという仕組み。ある日、レンタル品として貸し出された九官鳥が、返品されなくなったからさあ大変。九官鳥のタヌキを救うには…。少年が自分の居場所を見つけ、成長していく物語。

<読み物—中学生から>

『ラブリア!』 吉田桃子/著 講談社 2017.6 ¥1300

青少年創作映像コンクールの審査員特別賞をもらった拓郎。彼が主演に抜擢されたのが、ブスで定評のある涼子であったことから様々な問題が浮上。家族の女たち、クラスの女子たちだけでなく、同級生の男共も「見た目」を気にし、見た目がもつぱらの話題になっている日常に疑問を感じ、考え始めた中2男子の心情をユーモラスに描く。講談社児童文学新人賞受賞作品。

『炎に恋した少女』 ジェニー・ヴァレンタイン/作 田中亜希子/訳 小学館 2017.6 ¥1400

幼い時に父と離れ、冷たい母と義理の父の元で育った16歳のアイリスは、火を燃やすことと親友サーストンと話すことだけが楽しみ。大金持ちのアイリスの実父が瀕死の状態と知った母は、アイリスをえさに遺産をせしめようとイギリスへ。家族の愛を知らずに育った彼女が父とつむいだ最後の日々。そこで明かされる過去の真実と意外な結末…。『SUPER!YA』シリーズ。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『あるかしら書店』 ヨシタケシンスケ/著 ポプラ社 2017.6 ¥1200

あるかしら書店は、本にまつわる本の専門店。「〇〇についての本ってあるかしら?」って聞くと、たいいてい「ありますよ!」と出してくれる。月明かりの下でないと読めない「月光本」、上半分下半分の上下巻になっている「2人で読む本」など30編。唯一、お客様の要望に答えられなかった本とは…? 人気絵本作家による楽しい妄想書店の本のお話。

『でんじろう先生のおもしろ科学実験室 1びっくり実験』 米村でんじろう/監修 新日本出版社 2017.5 ¥3200

テレビで活躍の米村でんじろう先生と一緒に楽しい科学実験に挑戦しよう! 「スーパーシャボン玉実験」「段ボール空気砲実験」「逆さコップで大気圧実験」等、遊びながらできる実験を紹介。実験の結果やその理由を分かりやすく説明。テーマに合わせて、科学の原理やおもしろいエピソードを紹介するコラムあり。他に、『ふしぎ実験』、『工作実験』もあり。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『夏休み!発酵菌ですぐできるおいしい自由研究』 小倉ヒラク/文・絵 あかね書房 2017.6 ¥1000

身近な「菌」を育てて、食べ物を発酵させてみよう。発酵菌を使った食べ物を作る、夏休みにぴったりの自由研究ガイド。乳酸菌で牛乳をヨーグルトに、酵母菌でパンをふっくらに、こうじ菌でお米からあま酒を、納豆菌で納豆を。発酵食品の作り方等を豊富なイラストとともに紹介。夏休み終了3日から10日前に取り組みは間に合うという目安つき。自由研究のまとめ方も掲載。

<ノンフィクション—中学生から>

『知らなかった、ぼくらの戦争』 アーサー・ピナード/編著 小学館 2017.4 ¥1500

文化放送「アーサー・ピナード『探しています』」(平成27年度放送)のうち、23名の戦争体験談を採録し、加筆・修正して再構成したもの。真珠湾攻撃に参加したパイロット、故郷の択捉島を追われた少女、疎開船「対馬丸」の生還者、愛国少女だった義母などから聞き取った様々な戦争体験の意味とそれを抱えて生きる「戦後」の意味について、もと「敵国」の詩人が考える。

『高校図書館デイズ 生徒と司書の本をめぐる語らい』 成田康子/著 筑摩書房 2017.6 ¥840

札幌南高校の図書館を訪れた在校生や卒業生たちの本にまつわる体験談を13遍の物語のように紹介。高校生ビブリオバトル大会への出場体験、帰国子女の読書体験、山岳部員や美術部員の本との関わり、図書局員として関わった体験などが、高校生の言葉で語られる。ベテラン学校司書の働きかけが高校生に与えた影響や図書室での日常的な交流の様子が伺える。ちくまプリマー新書。

<研究書>

『物語の森へ』 東京子ども図書館/編 東京子ども図書館 2017.5 ¥3600

『絵本の庭へ』に続く、児童図書館基本蔵書目録の第2巻。1950年代～2016年に刊行された中から、伝承すべき優れた文化遺産と思われる児童文学作品1600冊を15年かけて選定。幼児から中・高生までの読者層を3段階に分け、作家名順に、昔話・神話・伝説は地域別に、あらすじや本の魅力を簡潔に紹介。後半の詳細な「件名索引」はブックトークや調べ物などに役立つ。